



千歳市国民保護訓練について

1 実施の趣旨・目的

北朝鮮による弾道ミサイルの発射が繰り返され、北海道に対するJアラートも発令されるなど、北海道周辺の安全保障環境も不確実性が増している。

このような現状を踏まえ、万が一の事態に備えた準備が必要との認識に立ち、図上訓練を実施することとした。

訓練は、偶発的なミサイル落下を想定し、市及び関係・協力機関の初動対処に関する知識・知見の共有、相互連携の確認を目的として実施した。

2 訓練日時

令和6年1月25日（木）午前9時～12時

3 訓練会場

千歳市防災学習交流センター（そなえーる）屋内訓練室

4 訓練参加者

指定地方公共機関（北海道開発局、北海道防衛局など）、
陸上自衛隊（第7師団司令部、第11普通科連隊、第7後方支援連隊、第7化学防護隊）、航空自衛隊（第2航空団）、
北海道（石狩振興局、千歳警察署など）、
指定公共機関（北海道電力、北海道ガス、JR北海道、ドコモCS北海道など）、
イオン北海道、北海道エアポート、
千歳市（各対策部） 等 計 30機関 150名

5 訓練成果

- ・事態発生に至る状況が不明確な初動においては、市が主体となり、関係機関等と連携し相互の能力を補いつつ安全かつ迅速に対処する必要があることが確認された。
- ・弾道ミサイルの特性、特に有害物質への対応を踏まえた活動が必要であることについて、共通認識を図ることができた。

6 今後の取組

今回の訓練成果を踏まえ、市が作成する対処マニュアルの見直し等を行う。
また、Jアラート発令時の避難行動等について、引き続き市民周知に努める。